

## LGBTを知ることから

労働者委員 奥 恵利美

皆さんは、LGBT を聞かれたことがありますか？最近マスコミ等でも取り上げられるようになりましたが、まだ一般的に知られていないというよりも理解されていないのが現状だろうと思われま

す。今年の3月に連合鹿児島女性委員会の講演「はじめての LGBT～求められる理解・支援のカタチとは～」を聞いて私も理解できました。L⇒レズビアン(女性の同性愛者)・G⇒ゲイ(男性の同性愛者)・B⇒バイセクシャル(両性愛者)・T⇒トランスジェンダー(性同一性障がい・性別違和)のことだそうです。セクシュアルマイノリティ=性的少数者の方々を表す総称の1つとしてメディアがよく使う言葉だそうです。

この講演を聞き始めて間もなく衝撃が走りました。それは講師のお二人が当事者だったからです。一人の方はG(男性の同性愛者)、もう一人の方はT(女性として産まれたが男性として生きる、心と体の性別が一致していない人)でした。そして体験を会話形式で淡々と話されました。Gの講師の方は、学生時代に更衣室で着替えをするのが恥ずかしく、体育の時間はほとんど参加できていなかったそうです。またTの講師の方は、女子の制服を着用しなければならないことの苦しさを毎日味わっていたそうです。子供が1人で悩みを抱えていたんだということを初めて知りました。ここで感じたことは、学校教育の在り方です。相談したくても相談しにくい内容だけに先生がどれくらいの理解があるかということだと思います。お二人の講師も親にカミングアウト(公表)するタイミングが難しかったそうです。親でさえ理解・整理するのに時間がかかったということでしたから、先生はなおさらでしょう。先生方も理解を深める学習をするなどし、相談しやすい環境づくりは早急な課題なのではないでしょうか。

最近、お茶の水女子大学が戸籍上は男性でも自身の性別が女性だと認識しているトランスジェンダーの学生を2020年4月から受け入れると発表されました。固定観念にとらわれず、勉強したい学生を受け入れる体制に心を動かされました。

まだまだカミングアウトしたいができない方が多くいらっしゃると思います。相談された場合、どのような対応をしたらよいのかも学びました。「言ってくれて嬉しい」「今まで気づいてあげられなくてごめんね」など、この一言が報われるそうです。それも信頼関係があるから言えること。逆に心ない一言に傷つき悩み苦しむ人がいるのも事実だそうです。

まず、私たちの意識を高め、差別されることなく、幸せに生きていくために正しく理解してあげることが大事だということを感じさせられました。

LGBTのことを理解したい・支援したいなど、偏見を持つ価値観の解消を促すための活動を支持する人、生きやすい社会づくりに貢献したいと願う人を指す言葉をALLY(アライ)と言うそうです。私もアライの一人として、理解を求める支援をしていきたいと思っています。そして認め合える世の中にしたいものです。